

みんなの
ための
校長会に



第221号

発行者
茨城県学校長会
会長 砂川 洋一
事務局
〒311-1125
水戸市大場町933-1
教育プラザいばらき内
☎ 029-269-1300
FAX 029-269-1304

特集

特色ある学校経営 行財政・調査研究委員会の要望や取組 先輩と語る会



休み時間終了のチャイムが鳴ると、校長室前で教室へ戻る子どもたちを迎えます。

校長「はい、おかえり。」

児童「校長先生、ただいま。」

久保田 憲
龍ヶ崎市立八原小学校

「笑顔」のものは人それぞれにいろいろあります。しかし、「笑顔」と一緒にいる「笑顔」は、本当に満足した時に見せるもの。その「笑顔」が一番素敵です。

「おはよう」「ありがとう」「失礼します」・・・。笑顔と一緒にあいさつが自然に行き交う学校づくりをしたい。暖かい心で最初に強く思ったことでした。こんな場面が日ごとに増えてきて、大変うれしく思います。

○○○表紙写真に寄せて	21
○○○特色ある学校経営	21
○○○行財政・調査研究委員会の	21
○○○要望や取組	6
○○○課題「大震災から学ぶ	6
○○○学校経営	7
○○○創意を生かした	8
○○○特色ある教育課程	7
○○○特別寄稿・図書案内	10
○○○ひばり	12
○○○梅のかおり	13
○○○支部だより	14
○○○ひばり	14
○○○学校長会	15
○○○市町村教育委員会と	16

目次

特集 1

校訓『正しく』『強く』『美しく』を達成できる生徒の育成を目指して

水戸・見川中 豊島 正明



本校は昭和四六年に開校し創立四〇年を迎えました。生徒数七六四名、学級数二三学級、職員数四五名の大規模校です。

本校は教育目標を「教育全體を通して、義務と権利について教え、よりよい成果を目指して互いに伸ばし合う生徒を育成する」とし、具体的には本校の校訓である「正しく」「強く」「美しく」を達成できる生徒の育成を学校全体で目指し、校訓を学期ごとの指導の重点とした取組を進めています。

一学期の重点は、「美しく（規範意識の高揚）」です。心が美しく誠実である生徒を目指そ

うことで、規範意識の高揚を目指しています。生徒としての権利と義務を果たすために、「やるべきことはきちんとやる。美しい心で相手を愛し、思いやりをもとう。」ということを柱として、「あゆみ」の生活のよう

うに記載されている一〇項目の評価観点から、週ごとに目標を設定し、毎日できたか、できなかを調べ、週末に評価しています。四月当初の目標は「あいさつができる。(基本的な生活習慣)」「進んで清掃活動に取り組むことができる。(勤労・奉仕)」としました。一学期に一〇項目のうち八項目以上に○がつと校訓達成者としています。

二学期の重点は、『正しく(学力の向上)』として、学習に励み、

正しいことを知識として身に付けようということで、学力の向上を目指すことを目標にしています。

二学期の重点は、『正しく(学力の向上)』として、学習に励み、正しいことを知識として身に付けようということで、学力の向上を目指すことを目標にしています。そのためには「チャイム着席」が実現するようにしていきます。さながら担任外の先生方は、昇降口で遅刻しないよう生徒に声をかけている。

チャイム着席についても、チャイムが鳴る前に先生方は、教室着席しよう。学習用具の準備をきちんとしよう。学習の姿勢をよくしよう。ノート、学習シート、レポートはきちんと提出しよう。各種テストは一生懸命取り組もう。作品はきちんと提出しよう。」というように具体的に評価観点を設定して、取り組ん

でいきます。

三学期は、「強く(体力の向上)」として、「健康管理をきちんとし、欠席・遅刻・早退をなくそ

う。部活動に積極的に取り組もう。委員会や係活動など与えられた仕事を自覚し、しっかりと取り組もう。」としています。

このように学期ごとに三つの校訓を指導の重点として、具体的に、それぞれ評価観点を決め、生徒や保護者に提示し、生徒と職員が相互に評価し、達成されていれば賞賛し、達成されていなければ達成できるように援助・指導をしています。

そして、正しい評価を実践するため、登校時刻を守ること

については、担任の先生が登校時間前に必ず学級に行って生徒を迎へ、八時五分の登校時刻には、学級全員が席に着き、毎朝の読書活動(本校では、学級全員が同じ本を読んで一体感がもてるようにしています。)が始まっています。担当の先生方が登校時間前に必ず学級に行つて生徒を迎へ、八時五分の登校時刻には、学級全員が席に着き、毎朝の読書活動(本校では、学級全員が同じ本を読んで一体感がもてるようにしています。)が始まっています。さながら担任外の先生方は、昇降口で遅刻しないよう生徒に声をかけている。

チャイム着席についても、チャイムが鳴る前に先生方は、教室着席しよう。学習用具の準備をきちんとしよう。学習の姿勢をよくしよう。ノート、学習シート、レポートはきちんと提出しよう。各種テストは一生懸命取り組もう。作品はきちんと提出しよう。」というように具体的に評価観点を設定して、取り組ん

うことで、校訓を達成したいといふ。生徒が年々増えました。

また朝のボランティア活動も自主的に行う生徒も見られるようになりました。このボランティア活動については、ボランティアをした生徒に、教頭先生が校訓カード(ボランティアカード)を発行し、生徒は、そのカード

を「わたしたちの生活(生活ノート)」に貼り、担任の先生が、それを見て、賞賛・評価するようになっています。当然、二人の教頭先生も正しい評価をするため、生徒と一緒にになって、朝のボランティア活動を実践しています。

このように取組から、本年度の一学期の校訓達成者が八三%に達しました。そのため、現在の学校の様子は朝のボランティア活動から始まり、遅刻する生徒は、ほとんどなく、朝の読書活動が八時五分に静かにスタートし、学校全体が落ち着いた雰囲気のもと生徒たちが真剣に学習に取り組み、学校行事も意欲的に活気があります。

部活動も盛んで、本年度は関東大会に柔道部、水泳部、陸上部が、更に全国大会には、柔道部、水泳部が選出されました。

また、地域との交流として、見川中学校区ジユニアリーダーズを組織し、希望生徒七六名が子ども会活動の援助や地域活動に積極的に取り組んでいます。

目指す教育活動が重要であると考えることができる。

本校では、主体的に進路を決定し自己実現をしていくことのできる能力と、さらに人間関係を深めることの大切さを理解し、社会に貢献していくことが重要と考えを育てることが重要と考え、学級活動や総合的な学習の時間の全体計画や年間指導計画の見直しを図り、教育活動全体で体験的な学習を積極的に取り入れ実践してきた。

研究主題を「互いに認め合い、協力し合つて学習する生徒の育成を目指したキャリア教育の進め方」と設定し、平成二十一年より二年間研究を進めてきた。

一 研究のねらい

学級活動と総合的な学習の時間における体験的な学習の工夫を通して、互いに認め合い、協力し合つて学習する生徒の育成を目指したキャリア教育の進め方を発明する。

二 研究の仮説

○教育活動全体を通じ、組織的・系統的なキャリア教育の指導計画の見直しを行ない、実践していけば、生徒は将来に対する夢や希望をもち、その実現のために意欲をもつて学校生活を送るようになるであろう。

○学級活動や総合的な学習の

時間において、体験的な学習を積極的に取り入れた学習展開することで、人間関係形成能力の育成が図られ、協力・協働的な態度で物事に取り組む能力が高まるであろう。

三 研究の内容

○キャリア教育のとらえ方

人間関係形成能力の育成に重点を置くことで、望ましい勤労観、職業観が育てられるのではないかと考える。

○年間指導計画の作成

学級活動や総合的な学習の時間の授業の年間指導計画の見直しを行い、一単位時間あたりの授業ごとに、キャリア教育との関連を明確にする。

○授業研究

年間指導計画を基に授業研究を行なう。「話し合い活動やグループ活動、協同作業などを積極的に取り入れた授業の展開の工夫ができているか。」などについて研究協議を実践した。

○体験的な学習について

学習発表会、プレゼンテーション、ブレーンストーミング、意見交換会などの話合い活動やグループ学習などにも積極的に取り組んだ。

話すことは自分の思いや考えを相手に伝えることであり、自

分の存在や能力を發揮することを確認できることであり、相手に理解してもらうことである。また、話を聞くことは相手を尊ぶことであり、自分の意見と照合することで建設的な考え方をもつことにつながることである。

四 おわりに

今後も生徒一人一人が体験的な学習をとおして人間関係形成能力の育成が図られ、協力・協働的な態度が高まり、進路や将来に向けて自己実現が図られるよう、研究を深めていきたい。

小張つこ ふるさとづくり 人と人との やさしいふれあい

つくばみらい・小張 小 直井 修三

た。表題は、急増する転入生が一日も早く学校に馴れ、地域に溶け込んでほしいとの願いから始めました。彼らはここで幼少期を過ごします。彼らにとってこの地域は単なる居場所ではなく「ふるさと」になります。大人には、いつでも思いを馳せられるふるさとがあります。子どもたちにも、いつの日か振り返ることのできる温かなふるさとをもたせてあげたいと思いまして。人と人とのかかわりの中でやさしさや思いやりが実感できることを考えました。

二 郷土芸能「綱火」

小張には四百年間、途切れることなく地域住民に受け継がれている国指定重要無形民俗文化財「小張松下流綱火」があります。本校には二十年前から総合学習(研究)と後継者育成(実践)を目的に小張子供綱火研究会があります。綱火とかかわることは、その延長線上に地域住民との交流があります。お祭り当日、山車を引く児童に沿道から惜しみない拍手が送られます。子供



つくばみらい市は、伊奈町と谷和原村が合併して誕生しました。近年、「つくばエクスプレス」が開通し、本市にも学区内に「みらい平駅」が開設されました。駅周辺丘陵部は、土地開発・宅地造成が急ピッチに進められました。本校は、TX開通を境に児童数が一気に跳ね上がりまし

す。「今日も楽しい一日にしようね。」とことんぱをかけると「いいよ。」と背中のランドセルを上下に弾ませながら勢いよく昇降口に入っています。職員室では担任が提出ノートや学習プリントを抱き、「よし、今日もいっか。」と気合いの入ったことばを残して慌ただしく教室に向かいます。学校は児童にとつて楽しく自己実現できる場でありたいし、教師にとつて働きがいがあり、自己有用感の得られる場であります。

今後も生徒一人一人が体験的

な学習をとおして人間関係形成能力の育成が図られ、協力・協働的な態度が高まり、進路や将来に向けて自己実現が図られるよう、研究を深めていきたい。

通学路の向こうから次第に大きくなる声で学校の一日が始まっています。「おはよう。」と声をかけると「おはようございます。」と元気なあいさつが返ってきます。年歩みは、そのまま地域の歴

史になりました。

三 やさしさとぬくもり

つくばみらい市社会福祉協議会から「(前略)元気パワーいつぱいの挿し絵と温かいことばでつづったお弁当の掛け紙を作成していただき、一人暮らしのおじいちゃんやおばあちゃんに届けてあげたいと思います。(後略)」ぜひご協力ください。」との依頼がありました。

そこで、ご高齢者のみなさまの生き甲斐に少しでもお役に立てればと進んで引き受けました。この掛け紙作成をきっかけに、四年生が「おじいちゃんおばあちゃん、肩たたきしてあげるね」交流会を開催しました。当日は五十人を超えるお客様をお迎えすることができました。体育館のあちこちから「おばあちゃん気持ちいい?」「とつてもいい気持ちだよ。」とやさしい声が聞こえ、トントンと肩をたたく手が動いていました。児童の心に柔らかなぬくもりが染みていました。

四 集まれ 子ども応援団

おじいちゃん・おばあちゃん。家族同様に面倒をみてくれている親戚のおじさんやご近所のおじいさんなど子どもを応援してくれる人たちのためにこの日をつくりました。案内には、「子ども

もたちを応援する人は、だれでも大歓迎です。子どもたちは、大人の愛情で大きくなります。

いっぱいほめてください。いっぱい抱きしめてください。」と、お願いしました。教室では、自

分を見守るやさしいまなざしを振り向いた笑顔でしっかりと受け止めました。今後も子ども応援団とともにやさしさあふれる心のこもつたふるさとをつくりていきたいと思います。

立し、体力向上の基盤を養うことができるであろう。

(2)体力向上させる様々な運動カード」を配布し、毎月第一週を重点期間とし、早寝・早起き、朝ごはん・テレビやゲームなどについて、保護者と一緒に振り返らせ、望ましい生活習慣への意欲付けを図った。

幼小連携による児童・児童の体力向上を目指して

下妻・上妻小 秋田 武

学習支援などに大変協力的である。また、市立幼稚園(二年保育)が併設されており、小学校長が園長を兼務している。



本校では、平成二一・二二年度市教育委員会より幼小連携健康・体力アップ事業の指定を受け、「幼小連携による児童・児童の体力の向上をめざして(基本的生活習慣の確立を通して)」の研究主題のもと、研究に取り組んできた。

研究を進めるにあたっては、「交流活動研究部」「体力推進研究部」「資料調査研究部」「環境研究部」の四つの研究部を設け、取り組んできた。

研究の仮説として、以下の二つを立て研究を進めた。

①家庭と協力して「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発活動や生活チエック等を継続していけば、よりよい生活習慣が確

ろいろな遊び方を練習しながら、楽しく運動することができた。

五年生との「健康アップ、体力アップ」では、健康アップコーズと体力アップコースに分かれ、クイズを解きながら双六をしたり、カルタ取りをしたりしながら健康への関心を高めたり、体育館をスポーツジムに立て、山登りや的当て、ゴム跳びなどの様々な運動を楽しく行う。

具体的には、基本的生活習慣の確立のために「元気アップカード」を配布し、毎月第一週を重点期間とし、早寝・早起き、朝ごはん・テレビやゲームなどについて、保護者と一緒に振り返らせ、望ましい生活習慣への意欲付けを図った。

体力向上のための取組では、火曜日にロング昼休みを設け、幼稚園児から六年生までの縦割り班での交流を行った。様々な鬼遊びを工夫し、教えあって遊ぶことやルールを守って遊ぶこととの楽しさを味わい運動する意欲につながった。また、業間休みに週二回「上妻つ子タイム」を設け、トレーニングコースやサークリットコースを使った体力づくりに取り組んだ。

また、幼稚園児と各学年児童会では、三年生がグループ毎に考えた遊びや運動を幼稚園児とを行い、楽しく活動することができた。

三年生との「パワーアップ集会」では、三年生がグループ毎活動や上妻つ子タイム等での運動への意欲や体力向上につながった。また、異学年の交流を通じて、思いやりや社会性がはぐくまれたことが成果としてあげられる。

本年度もこれらの研究の取組を見直しながら、児童・児童の体力の向上に努めていきたい。

行財政・調査研究 委員会の要望や取組

特集
2

「要望活動・2011」の重点及び課題への取組の視点

一「要望活動・2011」の重点
　本年度の重点を要望として、県
教育委員会に以下の3点について
て、強く国に働きかけることを
要望しました。

(○) 小1・35人学級の継続と小2への拡大について
て国へ強く要望されたい。

(○) 基礎定数と加配定数のバランスのとれた措置であること。
○ 学級編制等地方への権限委譲については、各市町村の財政により格差が生じないよう、市町村への財政的措置を含んだ権限委譲を考慮すること。

(○) 次に、県への具体的要望の柱として以下の4点を示しました。(1)きめ細かな教育の推進に関すること。(2)教育環境の整備充実に関すること。(3)充実した教職生活に関すること。(4)市町村当局への助言内容に関すること。

特に、「本年度は『少人数教育に関すること』」について、7月に実施した調査結果等をもとに、その成果を発信することが事業の継続または拡充につながるという願いをもち、要望活動を推進しました。

ひ課題への取組の視点

○「中1・中学校生活スター支援」の継続と中2への拡大をお願いしたい。

・アンケート結果によれば、35人以下学級編制に対する保護者の意見は93%が「望ましい・どちらかと言えば望ましい」と感じている。その理由として、「4項目からの複数回答」で「先生が一人一人に目をかけてくれる」72%、「個別に指導してもらえる回数が増える」38%をあげている。学級の状況は「互いに仲良くしている」90%、「ルールを守り合おうとする雰囲気がある」80%と安定している。「問題行動への早期対応や早期発見が可能である」「94%」という調査結果もある。

子どもは楽しく学校に通っていると感じている保護者は94%であり、教師の生徒へのかかわりを認めている保護者

答)「先生が一人一人に目をかけてくれる」75%、「子どもと先生が話せる機会が増える」38%をあげている。教師サイドでも「学習習慣の定着や問題行動等への早期対応が可能である」という調査結果である。
子どもは楽しく学校に通っていると感じている保護者は97%であり、教師の児童へのかかわりを認めている保護者は96%である。この小1・35人学級の成果を確実にするとともに、義務教育スタッフの時期の2年間(9分の2)の重要性を鑑み、小2への拡大を国へ強く要望することをお願いしたい。

—

—

- (以下詳細は要望書参照)

○課題への取組の視点

(1) 少人数教育の成果検証のためには、調査継続の必要性があること。

○調査内容の再検討 ためには、調査継続の必要性があること。

○追跡調査 (ex. 中1スタート→中2→中3) で、評価の向上を検証する「評価のものさし」を何にするか。

○検証のための「評価のものさし」を何にするか。

① 学力の向上を検証する「評価のものさし」

・「全国学力・学習状況調査」「県学力診断テスト」

・校内テストや学校内評価の年次変化 等

② 学校生活の向上を検証する「評価のものさし」

・年間欠席率の推移」「不登校の出現率の推移」の妥当性

・「暴力行為発生件数」「いじめ認知件数」「少年非行率」の妥当性

・Q U テストによる学級集団

「東日本大震災から学ぶ学校経営」に関する調査研究

調查研究委員長 林 豊夫

調査研究委員会では、毎年県内公立小中学校長を対象に、学校経営改善の視点を明確にすることと行政への意見・要望等をまとめる際の基礎資料として活用することなどをねらいに、悉く調査を行っています。

と、震災後の学校経営について調査しました。寄せられた回答を集計分析して現状と課題を明らかにし、その課題解決のために、今後どのような取り組みをしていくべきよいかを考察しました。

大震災に係る調査の中で、各学校の対応には被害状況に応じて

課題



大震災から学ぶ学校経営

学校長会副会長 東小川 昌夫
(水戸・第一中)

約七年前に起きたスマトラ沖地震については、おそらく全ての日本人が知つてはいる。大津波が海岸を襲い、街に洪水のように押し寄せた映像が繰り返し流され、日本人の誰もが驚き、恐怖感をもつたはずである。

今回のようない大地震の確率は千年に一度と言うが、その確率が低いからといって、「今日は起きない」ことを保証してはいない。スマトラの映像を見れば誰だって「あれほど津波が自分たちのところに来ればひとたまりもない」と思つたはずである。しかし、元を過ぎても熱さを忘れてはいけないはずであった。

県学校長会調査研究委員会が八月に作成した「東日本大震災から学ぶ学校経営」には、地図発行時からの学校・教職員・地域の姿が集約され、数值を通して緊張感が伝わってくる。さらに、同調査の結果

分析には、「被災者であると同時に支援する側であるという意識付けは重要」と記されている。

①児童生徒の安全確保

これまでの避難訓練は、どうしても、学校が取り組みやすい被災設定であった。立つていられないほどの地震の揺れではなれない子を守るという意識においても、帽子をかぶる等の軽い対応策が多くあつたため、頭部を守るため、人から見て「恥ずかしいこと」はしないとされる。逆に、「人が見ていなければ何をしてもいい」となりかねない。だから、昔から、誰に見られなくとも、自分の行動を律する言葉として「お天道さまが見ている」という教えがあった。「お天道さまに申し訳ない」という時は、「人がいなくてもちゃんととした振る舞いをしなさいよ」と戒めてきた。他人を意識するとともに、お天道さまも気にながら、「恥」と「罪」のどちらも知る子どもを育てる教育が望まれる。

②保護者への児童生徒の安全な引き渡し

質問22「今回の大地震の経験をもとに見直したこととは何か」については、90%の学校が「保護者への連絡方法や引き渡し方法」と答えていた。停電や携帯電話がかかりにくい状況で、具体的に何をどうするのかの見直しが急務である。保護者に連絡がつかない時の引き渡し方法まで想定し、既に周知している学校も見られた。見習いたい。

電話がかかる前に、通信手段の断絶に伴う問題(災害情報の収集や保護者への連絡、児童生徒の引き渡し等)や避難所対応など、数多くの学校で課題として挙げていました。

また、「学校は安全で楽しいところ」の再構築に向けて、学校の危機管理体制等の見直しを行ななければならぬという認識を、多くの校長先生方が強くこれまで地域や学校教育の中で培われ、継承されてきたものであると言つていい。

「今後の学校経営で特に意識するようになつた経営目標やビジョン」についての考え方や意見をまとめますと、以下の三点になります。

第一は「児童生徒の生命の安全確保」です。危機管理と一括りにされがちですが、今回のような想定外の災害に対応するためには、教職員の的確な判断、迅速な行動、組織力の強化を図ることが重要です。

第二は「確実に親元に無事子どもを帰す」ことです。停電や通信機器の使用が途絶えた中の判断には戸惑いもあつたようです。市町村により差異はありますが、早急に行政側と連携して緊急事態の情報収集や連絡の手段の確立及び整備をしていくことが不可欠です。

第三は「未来を支える子どもたちの育成」です。世界のメディアから称賛された日本人のモラルの高さは教育のなし得る力の一つです。今回の震災を機会に、命を大切にする心や助け合う心、感謝する心などを教育の中核に据えて、更なる豊かな人間性を育成していくことが大切です。

今回の調査をもとにまとめた課題と対策については、Webページに詳しく掲載してありますので、これから学校経営、危機管理の見直し等の参考資料としてご活用いただければ幸いに存じます。

震災後、見直したこと
児童生徒の保護者への連絡方法と引き渡し方法
避難訓練の在り方
震災後、学校経営で特に力を入れたこと
命の大切さや思いやりなどの道德的・精神的育成
危機予測・回避能力の育成
「成67%」

調査結果の主なものについては、以下のとおりです。

- ・避難指示の方法
- ・拡声器または大声
- ・災害情報収集の方法
- ・ラジオ 74%
- ・下校方法
- ・外部との連絡 88%
- ・保護者への対応 73%
- ・教師が方面別に引率 96%
- ・避難所開設の有無 39%
- ・開設 65%
- ・避難所の運営体制 39%
- ・24時間体制 57%
- ・避難所開設の有無 65%
- ・非常災害用物資の有無 39%
- ・非常災害用毛布 15%
- ・非常災害用飲料水 18%
- ・非常災害用食料 13%
- ・非常災害用バッテリー 15%
- ・発電機 9%
- ・すべてなし 75%

◆三・一のときに、県内の子どもたちに大きな怪我もなく、その日もしくは次の日にはすべて保護者のもとに帰すことができたことは、普段の学校教育の成果と考えている。避難関係でも、また、世界から日本国民が整然と動いているという評価を受けた。これは日本の教育の成果であると考えている。今後も復興に向け茨城県学校長会が工夫をしながら進んでいきたいと思う。

◆本年の目標は、第一に大震災に学ぶ学校経営を考えていくこと。本日はその中の「大震災に学ぶ学校経営」について示唆を第二に経営ビジョンのレベルを高めていく、そして第三に、学校の改善・改革運動をしていくこと。本日はその中の「大震災に生きる力・生きる喜びなど、生きるということについてやつてもらいたい。ただ、子どもたちの学力をもう少し考えた教育をしてもらいたい。

◆県内の学校がこの大震災についてどう対応して、どう課題を乗り越えようとしているのか、四つの視点から説明する。まずは第一は避難・避難訓練、第二は記号 ◆ ◇ 先輩校長 現職校長

特集3
先輩と語る会
八月一日
水戸三の丸ホテル

避難所運営、第三は教育に生かす、第四は防災拠点という新たな役割が学校に入ってくるやもれぬという視点。この四点である。まず、三月二日一時四六分、地震が起つた。地震が止まらずに長く続いた。度は保護者への引き渡しという事態になつた。概ね半分の保護者が来て、連れ帰つた。その後、集団下校で教師が引率した。家にいたりからい引き渡しきれればよいかが、いない場合はもう一度学校に連れて帰る。長い場合には次日に引き渡した。次に避難所運営である。三の丸小には県外の人も含めて概ね八〇〇人の避難民が来た。体育館はガラスが破損しているので、教室等で避難所運営を進めた。避難所運営が一〇日ぐらい進められた。一日で終わつた学校や、もう少し長時間のものがあった。第三に大震災に学ぶという意味で、今マニュアルを見直しをしている。避難訓練についても、避難訓練単体で終わっていたものを、引き渡し訓練と併せた訓練を考えたり、マニュアルについても、パリエーションを多くしたりしている。さらに、一生懸命生きていこうとする人たちを子どもにどう伝えるか、視点をどう与えるか、節電についてもどう訴え実践させるか、いろいろ工夫をしている。最後の防災拠点については、市町村教육委員会等との話し合いの中でこれからどうしていくのがよいのか考えていく。



◆「生きる力」だと考えている。判断力、そして学習だけではなく、思考、く、すべてのものに挑戦する心をつくつていくといふ総体を言うのだと思う。

◇本年度から茨城県教育振興五ヵ年計画が始まった。新たに、防災・災害を取り上げ、「人一人が輝く教育立県を目指して」とあるが、要点を教えていただきたい。

◆いばらき教育プランの中に五つの視点があり、耐震化は小中学校は五五%から九〇%を目指す。そのほかに、施設だけではなく、トータルした教育環境をよくしていくこうという方向性を示している。

◇震災に学ぶということ、これまである。その基本方向が（五質の高い教育環境整備）にその渡して、それで全く安心ということではいけない。学校はどのよううに保護者への説明やお願いをするのかお聞きしたい。

◆中学校の様子をお話する。地震が二時四六分に起きすぐにグランドに集め、どう帰すかを練をするが、保護者にいち早く渡して、それで全く安心といふことではいけない。学校はどのように保護者への説明やお願いをするのかお聞きしたい。

◆震災が二時四六分に起きすぐにグランドに集め、どう帰すかを考えた。情報が得られないのでもラジオや携帯で調べた。どう帰すかとしばし考えた。防災無線は鳴らない。教育委員会には通じないといふ状況なので、全職員で全方向に送り届けるということをやつた。しかし、家には送り届けたけれども、家には誰もいない。まだ中学生なら、家に一人でいることはできるかもしれないが、小学校ではこれは大きな課題ではないか。

◇学校危機管理計画の見直しがぜひ必要だと思う。その辺の対

◆マニユアルを見直すというよりは、想定を見直さなければいけない。みんなで最悪の場合を想定して出てきた結論は、校長なら校長、担任なら担任の自己判断だつた。最終的にそれぞれの部門で危機意識をもつた判断が有効になる。

◇県学校長会の組織の中に専門委員会がある。ウェブサイトも立ち上げた。三・二について多くの問題が出ていた。学校で困ったことや対応したことをまとめ、全校長に発信してはどうか。情報報を集約し、校長の立場で学校長会としてまとめることが可能だろう。

◇学校長会報三〇号で、「今にしかできない教育」という提案があつたが、「学期の様子」を紹介いただきたい。各校長がどんな経営の中で生かそうとしているか、それあたりを集めながら紹介するのも学校長会として有効なことではないか。

◆大地震と危機管理を考えるとき、今度起つたときにどうするかが大切だ。伊豆沖とか静岡とか四国沖が心配される。今生きている子どもたちの時に起こるかも知れない。東京の直下型が起つたらどうするか。今の子どもたちが東京に住んでいるかもしれないし、あるいは津波が起つ沿岸部に住んでいるかもしれないということで、私は「今しかできない教育」と書いた。本当は「今だからこそやらなければならぬ教育」を考えたい。誰も経験したことがないことだから、自分がしっかりとしないとどうにもならないといふのが私の思いである。この大震災でどのぐらいの子どもたちが本気になつてゐるかが心配で、本



本当に身につけさせたいのは、自分の家にいるときに起きたとか、どこかに出ていたときに起きたとか、そんなときにどう対応するとか、そんなのがある。ある新聞では、親が「地震が起きたら、とにかくすぐにコンビニに行つて水と食べ物を買ひなさい。そして病院に行きなさい。病院の空いていようと避難をさせてもらいたい」と思つた。経験がないからいろいろな情報を与えて、子どもたちがその中で判断できるようについて書いた。学校長会の調査研究委員会でアンケート調査を実施した。どういうときには、どうに避難させたかとか、どこに避難させたかとか、どういう形でやつたかとか、そういう情報を今後提供していきたい。

◆「東日本大震災に学ぶ学校経営」というイメージの冊子を作成する予定である。いろいろな活動状況を発表してもらひながら、茨城県の学校のがんばりをまとめて、こんなときしかできない

◇保護者への引き渡しは連絡網が不通の場合、どう対処するのか、また、遠足先、登下校中の体育館、理科実験室など様々な場合が想定される。先生方の判断力と行動力が大切になる。児童生徒にも防災といううまい言葉を教えてもらいたい。

◆大震災の一ヵ月前、校長会報で、「危機管理体制の整備と学校安全の確保」という記事が掲載されていた。具体的な追跡検査では、各先生方、心に残る教育をぜひお願いしたい。

◇まず、自分がどう判断しどう行動するかが重要だ。第二に、逃げること。生きる力はよそから得られる。第三に、自身の命は自分で守るしかない。

◆大震災と学校の危機管理について、よく話すことがあります。それは、自分でも進言するところが大切である。また、大震災以後、教育の目標に示されている公共の精神とか主体的な社会の形成に対する意識が高まっている。また、大震災を記録にとどめておいたり、子どもたちに伝えていくことを大事にしたい。

◆学校給食関係で、校長は行政後輩に伝えていくことを全小中学校で取り組んでいただきたい。

◆緊急時の対応として一番大切なのは、小学校は子どもに一番身近にいる担任が適切な判断を下すことができる。また、校長の立場で、具体的な記録を作成し、校長室や、学校概要や歴史的変遷などの中に明確に残していくこと。経験するのは貴重だが、頼ってはいけない。それが間違った概念になる。第三に、指導者の決断力である。最高責任者である校長は、ぎりぎりの立場、切羽詰まった立場に常に立つべきである。マニユアルを作成するのだから、常々戦場という立場を自分の力で乗り越えることを考え、いつ、何が起こるかわからないということを覚悟しなくてやらなければならない。

◆学校給食関係で、校長は行政後輩に伝えていくことを全小中学校で取り組んでいただきたい。

◆緊急時の対応として一番大切なのは、小学校は子どもに一番身近にいる担任が適切な判断を下すことができる。また、校長の立場で、具体的な記録を作成し、校長室や、学校概要や歴史的変遷などの中に明確に残していくこと。経験するのは貴重だが、頼ってはいけない。それが間違った概念になる。第三に、指導者の決断力である。最高責任者である校長は、ぎりぎりの立場、切羽詰めた立場に常に立つべきである。マニユアルを作成するのだから、常々戦場という立場を自分の力で乗り越えることを考え、いつ、何が起こるかわからないということを覚悟しなくてやらなければならない。

出席者（敬称略）	先輩校長（役員）
寺門 光輝	横島 義夫
高塚 宏昭	日座 俊
吉田 良朝	藤田 久隆
鈴木 光紀	中川 實夫
山俊 六郎	坂井 哲雄
永山 陸	下河 哲雄
大山 茂樹	田崎 正次
塙 茂昭	田村 一巳
横山 俊	平山 光紀
鈴木 光紀	中井川 俊
櫻井 博康	佐藤 一
石津 博	和司 進
砂川 洋一	佐藤 仁
東小川 昌夫	鈴木 仁
綿引 和義	吉田 仁
横瀬 俊	鈴木 博
須田 順	吉田 仁
晴夫	鈴木 博

校長会
出席者
五名

震災とは関わらない学校事故とか事件に対する対応、想定内では、校長はもちろんのこと、各先生方、心に残る教育をぜひお願いしたい。

◆大震災と学校の危機管理体制の整備と学校安全の確保について、よく話すことがあります。それは、自分でも進言するところが大切である。また、大震災以後、教育の目標に示されている公共の精神とか主体的な社会の形成に対する意識が高まっている。また、大震災を記録にとどめておいたり、子どもたちに伝えていくことを大事にしたい。

◆学校給食関係で、校長は行政後輩に伝えていくことを全小中学校で取り組んでいただきたい。

◆緊急時の対応として一番大切なのは、小学校は子どもに一番身近にいる担任が適切な判断を下すことができる。また、校長の立場で、具体的な記録を作成し、校長室や、学校概要や歴史的変遷などの中に明確に残していくこと。経験するのは貴重だが、頼ってはいけない。それが間違った概念になる。第三に、指導者の決断力である。最高責任者である校長は、ぎりぎりの立場、切羽詰めた立場に常に立つべきである。マニユアルを作成するのだから、常々戦場という立場を自分の力で乗り越えることを考え、いつ、何が起こるかわからないということを覚悟しなくてやらなければならない。

◆学校給食関係で、校長は行政後輩に伝えていくことを全小中学校で取り組んでいただきたい。

◆緊急時の対応として一番大切なのは、小学校は子どもに一番身近にいる担任が適切な判断を下すことができる。また、校長の立場で、具体的な記録を作成し、校長室や、学校概要や歴史的変遷などの中に明確に残していくこと。経験するのは貴重だが、頼ってはいけない。それが間違った概念になる。第三に、指導者の決断力である。最高責任者である校長は、ぎりぎりの立場、切羽詰めた立場に常に立つべきである。マニユアルを作成するのだから、常々戦場という立場を自分の力で乗り越えることを考え、いつ、何が起こるかわからないということを覚悟しなくてやらなければならない。



創意を生かした 特色ある教育課程

「品格ある児童」を育む
品格ある学校づくりのために

東海・中丸小
萩谷 隆司



組む児童の育成

尊厳は、道徳・学級活動のみならず、学校教育全般を通して人間尊重精神の陶冶

二 具体的な取組

確かな学力育成グループでは、

算数科の授業研究で、児童の表現力を伸ばす学習指導に取り組んでいる。授業研究に際しては、学習指導案の協同立案により、全教員が主体的にかかわることができるようしている。また、

学びの確認テストやチャレンジテスト、ミニ作文、家庭学習帳、算数の少人数指導、理科の専科指導、百人一首、詩づくりなど、児童のやる気を引き出す工夫に努めている。

一 本校の基本理念
本校は、知性を基として、笑顔・礼節・真心・尊厳という四つの心を柱に、お互いに関連させながら品格のある児童の育成に取り組んでいる。

知性は、楽しく共学びができ、わかる喜びを味わえる学習指導。笑顔は、心で聞く、心で感じることを大切にした生徒指導。礼節は、儀礼的経験を重視するとともに、すべきことがきちんとできる児童の育成。

真心は、やる気とやり抜く気持ちを育て何事にも真摯に取り

り組んでいる。花は、心を育てるもの。児童ばかりでなく地域や保護者の協力により花壇づくりを行っている。また、学校前の通学路へも地域の方と共に花植えを行うなど、協力する心、奉仕する心、责任感を育てている。花は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊

かにするもの。朝の十分間読書や本の読み聞かせ、昼のお話会など、積極的な読書活動を進めている。花と本と絵のある学校への取組は、児童の夢を育み、個性を生かすもの。中丸ギヤラリーアート、心のコーナーを設置し、有名な絵画や児童の作品を定期的に展示している。これらを基とし、児童にとって学校が楽しい居場所となる環境づくりにより、品格のある学校づくりを推進している。

言語力の育成を図り、生徒の豊かな感性を磨く 教育活動の実践

常陸太田・峰山中
若松 宏



- (2) 勤労プロジェクト
・夢ファイル、夢実現シート、心の紹介
- (3) 健康プロジェクト
・学級における生徒と教師の心の絆づくり
- イ 学級における生徒と教師の心の絆づくり
- ウ 主体的な生徒会活動
・夢ノートの活用
・あいさつ運動、福祉活動の充実

- ア 自己のめあてをもつた体力づくりウォーミングアップの実施
- ・体育部通信の発行
- ・各種目のランキング
- イ 主将会議を生かした部活動
- ウ 仲間意識を育てるスポーツフェスティバルの開催

二 成果と今後の課題
オープンスペースを生かした授業実践により、これまでより言語活動を様々な視点から生徒の活動の中に組み入れることが可能になってきた。また、「夢ノート」の活用をとおして、生徒の学習状況の確認や教師と生徒の心の絆づくりに役立てることができた。

今度も各プロジェクトの具現化の手立てを検討し、よりよいものにしていきたい。

キ 授業に関する生徒アンケートの実施

本校は、常陸太田市の南部の田園地帯に位置し、生徒数二百九十七名、各学年三クラス、特別支援一クラスの学校である。体育館中に響き渡る校歌齊唱やオープンスペースのある教室が本校の自慢である。

健康や体力育成グループでは、運動量を増やすための体育の授業の工夫やふれあいタイムの充実、食に関する指導、保健指導、外遊びの時間の確保に取

り組んでいる。

花は、児童の夢を育み、個性を生かすもの。中丸ギヤラリーアート作品を定期的に展示している。これらを基とし、児童にとって学校が楽しい居場所となる環境づくりにより、品格のある学校づくりを推進している。

一 具現化のための取組
① 英知プロジェクト
ア 単元計画の改善
イ 基礎力テスト五教科実施
ウ 外部人材の活用
エ ステップアップカードの活用
オ 自己評価の活用
カ ノート展の実施

二 成果と今後の課題
オープンスペースを生かした授業実践により、これまでより言語活動を様々な視点から生徒の活動の中に組み入れることが可能になってきた。また、「夢ノート」の活用をとおして、生徒の学習状況の確認や教師と生徒の心の絆づくりに役立てることができた。

今度も各プロジェクトの具現化の手立てを検討し、よりよいものにしていきたい。

成長の連続と学びの連続から見えてくる 小中一貫教育の姿

つくば・吾妻中
廣瀬 文男



と組織づくり

「学び続ける力」「感じる力」

「なしとげる力」の三つの部会を核として教育実践を行ってい。国語・理科・英語では、九年間の系統的・段階的な学習指導、小・中学校教員の交流授業による発展的で専門性の高い学習活動等、小・中学校間で共同研修による多様な指導方法の構築を進めている。

「水平線をめざし 帆を膨らませた心は 近づいてはいつも離れても 諦めることはないだろ」「青き理性に」と題する校歌は、小澤俊夫氏（元筑波大学副学長）により作詞作曲された。子どもたちは未熟であるが、理性を持つている。子どもたちよ、自己を確立しながら、夢への挑戦を続け、ひたむきに生きてほしいと願っている。今年、開校から二十年目を迎えた。

現在、本校と吾妻小学校とで、子どもたちの人格形成が連続であるように、学びも連続であるという視点に立ち、施設分離型小中一貫教育を進めていく。今年度で四年目の実践になる。そのあらましを紹介したい。

【育てたい力（目標）の明確化

二 つくばスタイル科への取組
総合的な学習の時間では、環境教育を中心、小三から中三まで連続した学習を開催している。特に、下学年に対して学習成果を発表する機会を設けるなど、児童生徒は常に上級学年から学び続けている。さらに、つくば市における次世代環境教育カリキュラムの自校化により地

域の教育資源を活用し、大学生や研究者、様々な人の関わりを通して社会的自立の基礎づくりへと発展している。

11月24日（木）関東甲信越静地区小中一貫教育研究つくば市大会で「つくばAZUMA学園（吾妻小・吾妻中の学園名）」は、

限りなく一体型に近い分離型小中一貫教育の実践を発表する。

学力向上を目指した小中連携

古河・三和東中
岡野 陽子



域の教育資源を活用し、大学生や研究者、様々な人の関わりを通して社会的自立の基礎づくりへと発展している。
二 つくばスタイル科への取組
総合的な学習の時間では、環境教育を中心、小三から中三まで連続した学習を開催している。特に、下学年に対して学習成果を発表する機会を設けるなど、児童生徒は常に上級学年から学び続けている。さらに、つくば市における次世代環境教育カリキュラムの自校化により地

域の教育資源を活用し、大学生や研究者、様々な人の関わりを通して社会的自立の基礎づくりへと発展している。

- ・名崎小での中学生のあいさつ運動
- ・学びの広場ミニ先生派遣
- ・小六の部活動体験
- ・出前授業の計画（特に英語）
- ・中学校吹奏楽部員による小學生への器楽指導
- ・中学校入学説明会
- ・特別支援部
- ・現小六と中一の情報交換
- ・個別の指導計画の作成
- ・教材教具の研修と作成
- ・養護教諭部
- ・九年間の健康診断統計の活用
- ・保護者向けの文書統一（治療勧告等）
- ・事務部
- ・徴収金関係の情報交換
- ・集金システムの統一導入
- ・三 小中合同の職員研修
- ・学習意欲が一気に低下する中一ギヤップに対応するためにはまず私たち教職員同士の意識改革から始めなければならない。
- ・そこで八月十一日、小中全職員を対象に、教育実践「響きの会」元神奈川県茅ヶ崎市立緑ヶ浜小学校長【角田明先生】を講師にお招きし、「小中連携による学習規律の確立そして学力向上」という演題で講話をいただいた。小中連携は焦点化して追及することによって効果が生まれる等の内容で、今後の示唆をたくさんいたいたいた講話をあつた。
- ・現実的には両校の位置する場所は離れていても、同じ敷地内に小中学校が接続しているという意識をもつて、これからも連携を進めていきたい。

領域全般において交流を充実させ、主体性を育てるとともに、学力向上を達成する。

○ 義務教育九年間のスパンで二校の学びの土台となる共通事項を見直し、小中接続による学びと基礎・基本の確実な定着を図る。

二 具体的な取組
小中の全職員が各部に所属し定期的にもしくは隨時に連携を進めている。

学力向上部

- ・両校の学習の手引き作成
- ・自主学習のマニユアル作成
- ・学力診断テストの分析と施策
- ・小中統一テストの実施
- ・研究授業の相互参観と協議
- ・生徒指導部
- ・両校の生活のきまり作成
- ・交通 安全マップの見直し
- ・定期的に現六と中一の情報交換

- 三和東中学校区の名崎小学校・三和東中学校が、教科
- ・小中連携強化の趣旨

- ・小六と中一の宿泊を伴う
- ・校卒業生に送る小四のビデオレ
- ・三によるサイエンスデー。中学
- ・リーダー研修も実施している。

- ・小中連携強化の趣旨
- ・三和東中学校区の名崎小学校

- ・小中連携強化の趣旨
- ・三和東中学校区の名崎小学校

市町村教育委員会と学校長会

市教育委員会と 学校長会との連携

行方・麻生小

松金 孝之

行方市学校長会は、小学校十八校、中学校四校の計二十二校で構成され、行方市教育委員会は、学校教育課・生涯学習課・スポーツ振興課の三課からなり、本市では行方市学校教育プランを平成十九年に策定し、「生きる力」をはぐくむ学校教育の充実○地域と連携した学校教育の充実

という基本方針のもと、五年間の計画で取り組んでいる。今年度はその最終年度となつており、現在、校長会の代表も加わり次期教育プランの策定が行われている。

学校長会は、市立幼稚園長を交えた定例校長・園長会を月一回開催している。定例会以外にも必要に応じて開催し、教育課

題解決のための話し合いや各学校の取組等の情報交換を行つている。

本市では、東日本大震災により学校施設が被災し、小学校の二校が中学校で間借り生活を、一校の体育館が使用不能となる状況が生まれた。児童・生徒の学習環境の確立のために学校長会は全面的に支援を進めている。

又、少子化によって児童・生徒数の減少傾向が長期的に続いている。小・中学校の小規模化が著しく、複式学級が生まれ学年単学級の学校が殆どとなつてゐる。この状況は、クラス替えが困難になり、教職員の配置数も減り、児童・生徒同士が出会い、交流し学び合う機会が少なくなってしまうという状況を生んでいる。そのため、望ましい学校規模が求められ、行方市学校施設等適正配置計画が平成二十一年度から、十年間の期間で進められている。学校長会は教育委員会と連携を密にし、与えられた立場で協力している。

現在、次年度に麻生小学校と二つの中学校的開校と、三つの小学校と二つの中学校的閉校が決まっている。計画完了時には、

現在の二十二校が小学校四校、中学校三校の七校になることになる。そのための準備が着々と進んでいるところである。

一方、学力向上は本市においても喫緊の課題であり、そのため、学力向上対策委員会の設置と研究指定校の委嘱を行い、教員の指導力の向上と学力の向上に努めている。今年度は研究の成果を幼稚園一園、小学校二校が公開発表の予定である。

学校長会は、大きく変わろうとしている本市の教育環境を念頭に置き、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和のとれた児童・生徒の育成のため、市教委と連携を密接に図りながら取り組んでいる。

谷 教育委員会との連携について

守谷・守谷小

瀬野 清

本市校長会は小学校九校、中学校四校の計十三校で構成されている。本校長会は毎月定例の校長会を開催し、教育課題解決のために話し合い、各校の取組など

の情報交換を行つてている。また、教育長や教育委員会指導室長も同席し、本市の教育目標である「新しい時代を生き抜く人づくりを目指して」の達成に向かって、学校長会と市教委が連携・協力

し教育施策の提案に対する協議などを行つていている。

特に、児童生徒一人一人の能力や可能性を伸ばし、自己実現が図れるよう、教育委員会と学校長会が連携・協力して重点的に進めている児童生徒の学力向上策について紹介したい。

一つめに、学習支援ティーチャー（非常勤講師）の配置があげられる。授業中座つていらぬ、教師の話を黙つて聞けない、集団行動に適応できないなどの「小一プロブレム」に対応するため、小学校一・二年生の三十一人から三十五人の学級に配置し、複数の教員で学習指導や生活指導に当たっている。

また、中学校での学習スタイルや学習進度に適応できず学力不足や不登校を引き起こす「中一ギャップ」に対応するため、中学一年生に対して、英語・数学・理科・国語の教科で県から少人数加配が配置されていない学校に配置し、個に応じた分かりやすい授業を行つてている。

これまでの実績・成果として、これまでの会や給食・清掃指導等を複数で担任することことで、児童一人一人の実態に応じたきめ細やかな指導ができるようになつている。中学校では、生徒の理解度に合わせたグループ指導や個別指導が可能となり、基礎学力の確実な定着が図られている。

学習支援ティーチャーの採用にあたつては、教育委員会と学校長会が連携して面接を行い、教員の質の保証を図つていて。二つ目に、英語指導助手（ALT）の全校配置があげられる。小中学校十三校すべての学校にALTを常時配置し、授業だけではなく、休み時間や給食・清掃の時間、校内行事を通して外国人との交流を深めることを大切にしている。このような取組を通じて、小学校一年生の段階から英語に慣れ親しみ、コミュニケーション能力の素地を養うと共に、国際理解教育を推進しながら、中学校段階での英語力の伸長を図つてている。

本年度、小学校では新学習指導要領が全面実施され、外国语活動が五・六年生で必修となつた。学校長会では教育委員会と協議し、一年生から毎週英語活動が実施できるよう、文部科学省の特例指定を受け、特別の教育課程を編成し取り組んでいる。次世代を担う子どもたちを育てるためにも、教育委員会との連携・協力関係をさらに深めていきたい。

特別寄稿



地域のよさを

子どもたちに

桜川市教育委員会教育長
石川 稔

私は、毎朝出勤前の一時間あまり、愛犬と共に真壁の美しい自然を眺めながら田んぼ道を歩くのを、ここ何年も習慣として続けております。天気のよい日には、朝焼けに山際が赤く染まっていく美しさを眺めながら、健康であることと、この地に生まされたことに対する幸せを感じております。教育長として六年程勤めさせていただいておりましたが、本市の子どもたちにも、学校教育を通して、この地で生まれ育った幸せと誇りを感じ取ることのできる教育行政を推進していきたいと思っています。

一方、地域の歴史や伝統文化

は、朝焼けに山際が赤く染まっていく美しさを眺めながら、富谷観音、雨引観音、伝正寺、薬王院等の名寺院、そして国の重要伝統的建造物群保存地区と、有名な磯部公園の桜、あるいは二宮尊徳が築いた青木の堰等、文化は県内でも誇れるものです。現在、市内の各学校では、地域の教育資源を生かした様々な活動がなされています。地域の伝統芸能や地場産業に携わる方を講師とした総合的な学習の時間、学校行事に位置づけた筑波山や加波山登山、日本一きれいなまちづくりをスローガンとしている「真壁のひな祭り」の時期にかけての観光案内やお手伝いなど、地域の特色を生かした取組がなされています。

一方、教職員対象として、春、秋の「自然を楽しむ会」なども計画しております。始まつて五

年になりますが、新しくこの地に赴任された先生方を中心にお

を伝えていく名所や建造物が多くあります。国指定名勝として有名な磯部公園の桜、あるいは二宮尊徳が築いた青木の堰等、文化は県内でも誇れるものです。現在、市内の各学校では、地域の教育資源を生かした様々な活動がなされています。地域の伝統芸能や地場産業に携わる方を講師とした総合的な学習の時間、学校行事に位置づけた筑波山や加波山登山、日本一きれいなまちづくりをスローガンとしている「真壁のひな祭り」の時期にかけての観光案内やお手伝いなど、地域の特色を生かした取組がなされています。

一方、教職員対象として、春、秋の「自然を楽しむ会」なども計画しております。始まつて五年になりますが、新しくこの地に赴任された先生方を中心にお

声をかけ、筑波山や加波山を毎年異なるコースから登るなど、恒例的な行事になつております。新緑や紅葉ばかりではなく、カタクリの花の群生など、季節に応じた地域の自然の美しさに親しむことができます。

これらの体験活動の重視については、学校教育法に示された義務教育の目標の一つにもあげられています。自然体験活動を促進し生命や自然を尊重する精神等を養うこと、及び郷土の伝統文化を尊重し、我が国と郷土を愛する態度を養うこと等が明記されています。次代を担う子どもたちには、確かな学力をつけることと同時に、郷土への愛着とこの地で仲間と共に学び合った幸せを感じ取れるような教育を今後も推進していくたいと思います。そのためにも、子どもは地域全体で育っていくといふ認識を再確認するとともに、学校の先生方がまず、地域の自然や歴史・伝統を理解し親しんでいくことが、子どもたちを教育する前に大切になつてくるのではないかと思うのです。

行動することが生きることである

著者 宇野 千代

発行所 海竜社

常陸太田・世矢中 井上 定男

著の「行動することが生きることである」です。その中の一部を紹介します。

「行動が思考を引き出す」で

は、頭で考えるだけのことは、

何もしないのと同じことであ

る。手を動かすことによって考

えるのである。手を素早く動か

すことがそのまま頭を素早く動

かすことになる。

「人と人との結ぶルールは、

時間を守ることである」では、

世の中には時間はルーズでも、

他のことは几帳面で誠実な人も

あるかも知れないが、そんな人

は希である。時間を守るとい

うことは、人との付き合いの上

で守らなければならない最低の

義務である。

「お洒落は生きていく上で

生き甲斐である」では、お洒落

をする、あるいは気持ちよく身

じまいをすることは、生きてい

く上での生き甲斐である。一

寸大袈裟に言うと人としての義

務である。お洒落は自分のため

だけにするのではなく、半分

以上は、自分に接する人たちの

眼に、気持ちよく映るようにな

思つてするのである。

「人間の健康的な生き方」「時

間を守ることの大切さ」「相手

への眞の思いやりや気配り等、

人としての生き方を教えてくれ

る素晴らしい本です。

考え方を直ぐに理解し、決断や判

断を下すことによけていること

ひばり



木製操り人形～森の妖精たち～
(個々の名前は、左からマロン、グリドン、ゴロン)
常陸太田・里美中 福有 雄太

私は「ハッスル黄門」が好きである。私も元気なおばあちゃんになつてかわいらしく生きたいと思っている。しかし……
「もう手術しましよう。」
そう言われて神奈川の病院で左股関節の手術を受け、その二年後には右股関節の手術。あれから九年になる。覚悟していたもので、十日間の寝たきり生活。車いす、松葉杖を体験したりハビリ。二回とも二ヶ月に

ハッスルおばあちゃん
を目指して

常陸大宮・猪川小
後藤 美智子

及ぶ病院生活だつた。おかげで股関節のトラブルに関しては相手のスペシャリストになつた。この夏、知人二人が股関節の手術を受けた。二人とも手術を受けることを決断するまでには、名医を探し、様々な情報を得ていたが、なかなか踏み切れないのでいた。しかし、私の体験を伝えることで、そんな二人の背中を押してあげることができた。そう言えば、自分も経験者のアドバイスを受けることで決断ができたのである。これでやっとその恩返しができた。

医学の進歩はめざましく、二人とも十日から二週間でみごと日本教会に贈呈)の配布募集の記事を目にし、応募すると幸いにも当選。六月シオン学園の贈呈式で、被災された宮城県南

手術したことを忘れず、リハビリと体重管理を続けながら、お互いにハッスルおばあちゃんを目指して頑張りたいものである。

九月、八輪の美しいバラを咲かせ、地域の方も訪れ愛で下さっています。みんなの心を癒してくれるアンネのバラに感謝。

震災後、希望と平和の 「アンネのバラ」に感謝

那珂 芳野小
佐藤 加代子

蕎麦の「三たて」を味わう

常陸太田・水府小
佐川 憲一郎

常陸太田市北部の畑では、白かった蕎麦の花が黒く変わっている。蕎麦の実が黒く色づき収穫が間近となってきた。昨年から、蕎麦の栽培に取り組んでいる。十数年耕作しながらふれるほど安堵しました。

しかし、予想外に校舎に亀裂が入り教室使用は困難な状況。一学期低学年がプレハブで、中高学年八学級は体育館を四分割した巨大オーブンスベースでの生活となり、話が聞こえづらい中、寒さの春、次は暑さとの戦いと児童・教師も耐えていました。

そんな五月某日、新聞でアンネのバラ(平和を願ったアンネ・フランクの形見として父親が園芸家に改良してもらったバラを日本教会に贈呈)の配布募集の記事を目にし、応募すると幸いにも当選。六月シオン学園の贈呈式で、被災された宮城県南

には雄しへに比べて雌しへが長い長柱花、反対に雌しへが短い短柱花があること。蕎麦の花は虫媒花であり、長柱花の花粉は短柱花の雌しへにそれぞれ運ばれて受粉が成立すること等。自然の営みはまさに神秘的だ。

最近は蕎麦ブームもあり、手

打ちにこだわったそば屋さんが多くなり美味しい蕎麦を手軽に味わえるようになつた。だが「かえし」や「だし汁」も自作にこだわり、手間暇かけて作り出した蕎麦を食する瞬間はまさしく至福の時である。

猫のいる生活

潮菜・津知小
柏田 廣

我が家の猫の名は花子。縁あって生後一ヶ月でやつて来た。当時から水に非常に興味を持ち、風呂に平気で入つて来た。母が娘が悪いと怒つていたが、「挽きたて」は実現できていなかつた。これでやつと三たての蕎麦を味わえるようになつた。

そうするうちに今度は、トイレの手洗いの自動給水に惹かれ水浸しにするようになつた。母が娘が悪いと怒つていたが気にせず放つておくと、赤外線を体の一部に反応させ、自動給水の

水をこぼさず上手に飲むようになったのである。花子の特技は「かくれんぼ」にも及んでいる。独特な鳴き声を発し、私に前足でタッチすると猛烈にダッシュして物陰に隠れ始める。探すふりをすると喜び、やめたふりをすると、かくれんぼの継続を促すかのようにわざと手を出し、誘いをかけてくる。何という天才ぶりだ。

我が家に動物のいる生活は長く、思えば歴代の猫たちもそれぞれ特長があった。それを天才と認め、日々癒されている猫との生活は、今後も続くだろう。

「囲碁」から

土浦・真鍋小
福田 隆通

感涙！

石岡・八郷南中
富田 英次

「やったあ！」

「囲碁」を赴任校の先輩から教えてもらい三十五年になる。私の腕前は「ざる碁」程度でまだである。

囲碁は戦術と戦略との組み合いで戦いが有利に展開するゲームである。戦術（戦う技能、技術）が上手でも、また戦略（その戦術をどの場面で、どう使うかの選択・判断）だけ上手でも、囲碁の上達には難しい。

「定石」があり、ある程度決まった打ち方がある。しかし、相手の戦い方の状況を把握、予想しながら、それに適した最良

あるいは最善の手を打っていくに及んでいる。独特な鳴き声を発し、私に前足でタッチする

花子の特技は「かくれんぼ」

を始めると猛烈にダッシュして物陰に隠れ始める。探すふりをすると喜び、やめたふりをすると、かく

れんぼの継続を促すかのように

わざと手を出し、誘いをかけてくる。何という天才ぶりだ。

我が家に動物のいる生活は長く、思えば歴代の猫たちもそれ

ぞれ特長があった。それを天才と認め、日々癒されている猫との生活は、今後も続くだろう。

あるいは最善の手を打っていくに及んでいる。独特な鳴き声を発し、私に前足でタッチする

花子の特技は「かくれんぼ」

を始めると猛烈にダッシュして物陰に隠れ始める。探すふりをすると喜び、やめたふりをすると、かく

れんぼの継続を促すかのように

わざと手を出し、誘いをかけてくる。何という天才ぶりだ。

我が家に動物のいる生活は長く、思えば歴代の猫たちもそれ

ぞれ特長があった。それを天才と認め、日々癒されている猫との生活は、今後も続くだろう。

あるいは最善の手を打っていくに及んでいる。独特な鳴き声を発し、私に前足でタッチする

花子の特技は「かくれんぼ」

を始めると猛烈にダッシュして物陰に隠れ始める。探すふりをすると喜び、やめたふりをすると、かく

れんぼの継続を促すかのように

わざと手を出し、誘いをかけてくる。何という天才ぶりだ。

我が家に動物のいる生活は長く、思えば歴代の猫たちもそれ

ぞれ特長があった。それを天才と認め、日々癒されている猫との生活は、今後も続くだろう。

心も体も生き生き

古河・上辺見小
永盛 清二

担任が呼名すると、

「はい、元気です。」

という、元気な返事がどの教室からも聞こえてくる。朝の健康観察の時間である。

二時間目終了のチャイムが鳴ると、一目散にグラウンドにとび出し、鬼ごっこ、ボール遊び、

鉄棒等々、思い思いの場所に行つて夢中になつて遊び始める子どもたち。あちらこちらから聞こえる子どもたちの歓声が、グラウンドいっぱいに広がる。休み時間終了のチャイムが鳴ると、汗びっしりになつた笑顔で、急いで教室に戻つていく。その姿はまさに、疲れを知らない子どもたちである。体だけでなく、一人一人の表情から、心の面でも生き生きとしているように感じられ、安心する日々である。

授業などで、自分にできることや得意なことを精一杯やり遂げた結果を、十分に評価されたとき人は、生き生きとしてやる気がわいてくる。子どもたちが

心も体も生き生きと生活できるよう、今後も子どもたちに寄り添いながら、努力の結果を十分認めてあげることができる教師

台風一過の贈り物

常總・大花羽小
稻川 善成

猛威を振るつた台風十五号。日本列島をすっぽりと包みこんだまま北上を続け、大きな傷跡を残したまま去つていった。

台風一過の翌日、職員数名で倒木の除去作業や学校敷地内外の小枝と木の葉の片付けをしてみると、登校してきた高学年女子児童の一人が声をかけてきた。「先生、私たちもやりました。」「先生、私たちもやりました。」「ありがとうございます。助かるね。」そう返答するや否や、今度は別の女子児童が、「先生、みんなを集めてきます。」と言いました。

残してその場を走り去つた。

三分後、五・六年生児童全員が担任と共に合流し、校舎周辺の吹き溜まりや学校に隣接する歩道・民家の小枝の除去と木の葉の掃き掃除をしてくれた。

「キーン・コーン！」鐘の音が響く。「もう終わりにしようよ。」と男子。「だめよ。努力が無駄になるじゃない。」と女子。結局、全児童が最後まで木の葉の除去作業をしてくれた。自主的に奉仕してくれた児童を誇りに思うし、深く感謝したい。

台風一過は、「努力は結果が出るまで」という児童からの心に響く言葉を贈つてくれた。

「キーン・コーン！」鐘の音が響く。「もう終わりにしようよ。」と男子。「だめよ。努力が無駄になるじゃない。」と女子。結局、全児童が最後まで木の葉の除去作業をしてくれた。自主的に奉仕してくれた児童を誇りに思うし、深く感謝したい。

台風一過は、「努力は結果が出るまで」という児童からの心に響く言葉を贈つてくれた。

その日、保護者と一緒に、一球一球のプレーに固唾を飲みなが

らの応援となつた。0対0の膠着状態のまま、六回の裏、二

死一墨。延長を覚悟したその時。

六番の三年生打者が三塁打を放ち、一点を先取した。最終回、負けが定石にこだわって戦つても負けてしまうことが多い。

教育も人と関わる場面が多い仕事である。相手（児童・保護者・地域の方々）を把握し、状況を読んで対応していかねばならないことがある。「囲碁は人の生き方と共通する部分もある」と読まれて、私はもつと早くから上達してたらよかつたの

にと思う今日この頃である。興味もたれた方、囲碁の世界に触れてみては如何だろう。

大会敗戦後、引退する三年生を含めた全部員の感謝を込めた

在校歌が、夕暮れの大会球場に響き渡つた。また、感涙！

大会敗戦後、引退する三年生を含めた全部員の感謝を込めた

在校歌が、夕暮れの大会球場に響き渡つた。また、感涙！

本校は、生徒数百人の中規模校である。本年度は「ワゴン・ステップ・アップ」をスローガンとして、学習や学校行事、部活動に全校で取り組んでいる。その中で、野球部が悲願を達成したのだ。

その日、保護者と一緒に、一球一球のプレーに固唾を飲みなが

らの応援となつた。0対0の膠着状態のまま、六回の裏、二

教頭になり、改めて教員人生を振り返ったことがある。すると、随分と我儘で身勝手な教員であったと赤面する自分がいた。自分の情熱に任せた、子どもたちを置き去りにした自分の「仁義なき教育」を反省した。

日本人の心は?」「日本人の精神は?」と問われた新渡戸稻造は、武士道の精神を答えとして著書に著わした。

「仁義礼智信」の五常がその精神の中核にある。武士が大切にしてきた精神文化（信念）である。第一に挙げているのが「仁」である。

「日本人の心は?」「日本人の精神は?」と問われた新渡戸稻造は、武士道の精神を答えとして著書に著わした。

前・東海村立白方小学校長
鈴木 洋行

仁の心



梅のかおり —先輩校長から—



校長職に就いてからは、自分の思いや熱より、所属職員の思いや熱を優先することにした。すると職員の良さが観え、職員と共に自分も熱くなるのが感じられた。当然、達成した時には、喜びを共有できたのである。

教育界を離れた今、改めて次の世代を担う人々には、日本の心、「仁」の心を大切に育てて欲しいと願うのである。

警咳に接する思い新たに



前・大子町立大子中学校長
松本 成夫

退職して間もなく二冊の本に触れた。一冊は『日本人の誇り』（藤原正彦・文春文庫）である。

未曾有の国難「東日本大震災」に直面した日本。本県は甚大なる被害に遭った。福島県を始めとした東北地方は、地震・津波、

あそぶ



前・高萩市立松岡小学校長
菊池 繁

原発・風評被害の四重苦。日本再生、復興のカギが教育の立て直しにあることは言を俟たない。国民みんなが苦難を共にするという「情」と、復興のために必要なことはその「情」に反しても断固やり抜く「理」。この「情」

と「理」をつなぐのはリーダーの真摯な言葉にあることを痛感した。「人生は想定外の連続されど言ふまじりーダーならば」（斎藤嘉子・4/1読完歌壇）「想定外」という言葉をぐつと飲み込み、復旧対策に奔走した。

三月十一日、「家に帰らず学校に泊まる。」と連絡。「家は私が守るから、学校のことに専念してください。」家人の返事が今も耳の奥に残っている。

もう一冊は『孤舟』（渡辺淳一・集英社）である。退職して始まる本当の孤独。この本の中身の何と重なったことか。第二の人生の意味を諒解した瞬間でもあった。一読をお勧めしたい。

もう一冊は『孤舟』（渡辺淳一・集英社）である。退職して始まる本当の孤独。この本の中身の何と重なったことか。第二の人生の意味を諒解した瞬間でもあった。一読をお勧めしたい。

想定外」という言葉をぐつと飲み込み、復旧対策に奔走した。

あそびの中に夢中でのめり込

んでいる園児の姿は、何ともほほえましい限りです。プロックを積みながら何やら想像の物との関わりに浸りながら言葉を発している子がいると思えば、レストランごっこで客を呼び込んでいる子がいます。園児の近くに顔を出すと彼らは何の違和感もなく同等の仲間として話しかけてきます。無心になつてあそぶ姿がしみじみといいなあと思っています。

退職後気分的には少し余裕のある時間を過ごしているので、幼児のようにはできなくても「あそぶ」ことを大事にしたいものだと思っています。

縁があつて、四月から高萩市立東幼稚園に勤めています。園児は理屈なしにとてもかわいい存在で、彼らの活動は見ていても飽きません。

登園してから降園するまで幼稚園の一日は、「あそび」を中心



に展開します。一日の流れを教師はどう構成しているのか興味津々の四月でした。教師は、園児の思いに寄り添いながら環境の構成を工夫しており、遊びの基礎をはぐくむ畠みはゆるやかで豊かです。

間もなくの定年退職を爽やかに迎えようとしていた矢先の大震災。県内の出張先から五時間近くかけて学校へ戻ると、百名以上の生徒が保護者の迎えを待っていた。生徒、先生方全員の「無事」を確認し、校庭で数人の先生方と一緒に一夜を過ごした。校舎、体育館共に大きな被害を受けたが、明日への大きな希望と期待を持ち続けるよう生徒達に語りかけてきた。それから間もなく鉢田幼稚園長を拝命した。四歳児、五歳児の七五名の園児達は、園庭での遊びを中心に、多くのボランティアの方々に支えられながら楽しく生活している。登園、降園バスに乗り、保護者の方々と挨拶を交わし毎朝のスタートを切るよう心がけている。保護者の中には、余震が続く中での生活でもあって、放射線量の数値を気にかけてい方々もいる。地域の方に協力



前・鉢田市立鉢田南中学校長
木村 邦夫

幼稚園教育に携わって

を得て、園庭にEM菌を散布するなど、具体的な対応に心がけて安全・安心を高めるよう努力している。鉢田市教育目標「夢かな人づくり」に向けて日々楽しく取り組んでいる。

感謝と与生



前・稻敷市立沼里小学校長
和田 克典

私は、退職するにあたって、以前から心に決めていたことがあった。それは、退職の日であります三月三十一日にお世話になつた学校に行き、感謝の気持ちを表したいということであつた。

幸いにも、最後に勤務させていただいた学校が、私の住んでゐる学区でもあつたので家から近い距離にあつた。夜半学校の正門前まで行き、今まで勤務できたことへの感謝の気持ちをこめ軽く頭をさげた。いろいろな方々や出来事が走馬燈のように頭を駆けめぐつた。この間わずかな時間ではあつたが、安堵感となんとかやり遂げられたといふ気持ちで学校を後にした。

さて、年度も変わり、今後どう

「無意識」の世界に対しても、人間の脳の「意識」の世界は、その一角と言われる。

意識は「思考・言語・無意識」として、身体・感覚である。

意識と無意識が別々のこととは、望んでいるときは、無意識が行動を決めてしまう。

意識通りに行動できるのは、意識と無意識が同じ方向を向いているときである。



前・取手市立取手小学校長
中嶋 保夫

無意識の世界を知る

のような過ごし方をしようかと
いろいろと考えていた。

こんな時、私が若い頃から、
大変お世話になりいろいろと指導
導してくださった先輩が、次の
ようなことをおっしゃつてくれ
た。「定年後は余生ではなく与
生だという人がいる。決して金
りの人生ではない。」とアドバイ
スをしてくださったのである。

微力ながら、「感謝」の気持
ちを「与生」に繋げることができ
きればと考え、今後も子どもたち
に少しでも関わることができ
るよう、明るくしっかりと過ご
していきたいと思っている。

東日本大震災、原発事故、世の中が騒然としている中で、最後の退職辞令を頂きました。

現在私は、週四日程度、県生涯学習センターに勤務しています。いろいろな年代の人が利用しており、私と同世代の人や一回り二回りも上の人達がそ



前・古河市立古河第二中学校長
井上 明雄

雜感

経営で実践してきた。
ピゲマリオン効果も無意識の動きがあつてのことと思う。現在は取手市教育相談センターに勤務しながら、余暇はゆつたりとした時間の流れの中で晴耕雨読や初めて挑戦した樹木の剪定を楽しんでいる。

また、考えていることが実現しないのは、無意識が望んでいないからである。脳は今のままの自分が好きだから、変化を望まない厄介者でもある。

何事を実践するときも無意識を味方に付けることが大切。強い「思い込み」は、無意識に届き、無意識を動かす。

私は、この思い込みを学級経験

A black and white portrait of Nakamura Naoyuki, a middle-aged man with short dark hair, wearing a suit and tie. He is looking directly at the camera with a neutral expression.



前・結城市立結城中学校長
中村 義明

セカンドライフ

今年のねりんピックは熊本県が開催地です。全国のサッカーを愛する人達と試合が出来るのは楽しみにしています。

過半数を占めています。皆、自分の生き甲斐を求め、趣味や教養の世界を広げています。健康を維持し、意欲を持ち続けることに感心させられます。

私も力を入れて取り組んでいるものが二つあります。一つはゴルフで、いくつかの同好会に加入しています。中学時代の恩師と一緒にラウンドすることもあり感慨深いものがあります。自分もできる限りプレーし続けたいと思います。もう一つはサッカーです。私の所属している愛好会は毎週土曜の活動で、楽しみながら汗を流していくまじょうに練習しています。その気力と体力には、びっくりさせられます。

の三十八年間と比べて、かなり内容を異にするし、けっこう体力も必要である。戸惑いもあつたが、皆さんから多くのパワーをいただきて、日々リフレッシュしながら充実した時間が流れれた。好きな自然科学の分野でのオファーがあり、幼稚園や中学校に訪問することもある。以前より続けている科学クラブやブレイバークの手伝いとなかなか忙しい。「あれもやつてみたいい」欲張って気が急ぐ。先輩諸氏はどのようにされているのか?退職校長会の集まりの話の中でいろいろとアドバイスをいたいた。朝、まだ眠たい気持ちを払いのけ、自転車を乗り出します。鬼怒川の土手を北に向かつて千道五キロ、そして、折り

**大子地区
「豊かな人間性を育む学校教育の充実」
を目指して**

大子町学校長会は、小学校七校、中学校五校で組織運営されている。本年度は、石井久雄会長を中心に、大子町教育目標の具現化を目指し、研究と実践に取り組んでいる。

一 学校教育目標の達成

○目標達成に向けた方策の明確化とその具現化を図る創造的な教育活動の推進

二 新学習指導要領の理念に基づいた教育課程の編成・実施と評価・改善

○基礎的・基本的な知識・技能の習得とこれらを活用する力など確かな学力の向上

三 児童生徒の夢の実現に向けた教職員の資質・能力の向上

○学校の危機管理体制の整備と教職員一人一人の危機管理能力の向上

四 危機管理意識の高揚と学校安全の確保

- 組織活動の質的充実
- ・マネジメントサイクルを生かした組織的、継続的な教育活動の推進
- ・特別委員会の研究活動と
- ・幼・小・中連携の充実
- ・学校運営との連動
- 教育諸機関との連携強化

支部だより

**日立市
「元気な日立づくり」
を目指して**

日立市学校長会は、小学校二十五校、中学校十五校、養護学校一校で組織・運営されている。星秀男会長(助川小学校長)を中心に、「元気な日立づくり」を目標し、学校経営や各種事業等に積極的に取り組んでいる。

一 本年度の主な課題

- 専門部や特別委員会の充実
- 新学習指導要領への対応
- 日立市学校教育振興プランへの対応
- 安全管理意識の高揚
- 校長会課題研究の完結
- 管理職としての活動

二 本年度の主な活動

- ・学校づくり推進事業の推進これまで、特色ある学校づくりや小中連携などによる児童生徒が主役の学校づくり、地域人材の活用による地域連携等に成果を上げてきた。教員の資質向上や学校の教育力の向上にも役立っている。
- ・本協議会は今年で三十四年目のを迎える伝統のある会である。校長会が学校運営に関する研究テーマを設定し、校長、教頭、教務主任の立場から追究する研究スタイルがとられている。本年度から「確かな学力を育成する学校経営の推進」で二年間の継続研究がスタートした。

**龍ケ崎市
創意あふれる学校経営を目指して**

龍ヶ崎市校長会は、市内十九校で組織・運営されている。校長会として龍ヶ崎の教育の伝統を守りつつ、時代の要請に応じた新たな課題への対応を進めている。東日本大震災や放射線対策等、これまでに経験したことのない課題に対しても教育委員会と連携を図りながら一致協力して対応を進めている。

一 本年度の活動目標

- (1)信頼と期待応える学校経営
- (2)創意ある教育課程
- 新教育課程の工夫と取組
- 特色ある教育課程の編成
- (3)心身共に健全でたくましい児童生徒の育成
- 学年・学級経営の充実
- 教育理論や教育技術の研鑽
- (4)資質能力の向上を図る研修

二 本年度の特設委員会

- 中学校区毎に小学校を六つのグループに分け、教頭と教務主任を中心とした特設委員会を設置し、「取手市小中連携(二貫)

本年度の重点課題

- 一 生きる力をはぐくむ特色ある学校経営の推進
- 二 心の教育の充実を図る教育活動の推進
- 三 生き生きとした児童生徒を育てる教育活動の充実
- 四 教職員の資質の向上をめざす研修の充実
- 五 開かれた学校づくりの推進
- 六 社会の変化に柔軟に対応する学校経営の推進

**取手市
一人一人を生かす創意と活力に満ちた学校づくりの推進**

取手市学校長会は、小学校十八校、中学校七校の校長で組織している。矢作進会長(取手小学校)を中心に、市教育委員会及び教頭会、教務主任会と密接な連携を図りながら、学校経営と研究の推進に努めている。

**結城郡
『輝きのある学校』**

それぞれのグループが創意工夫した小中連携を推進している。

結城郡校長会(八千代町)は、小学校五校、中学校二校の校長で組織運営している。八千代町教育委員会の方針「児童生徒一人一人が輝く学校づくり」をうけ、少人数の組織を生かして七つの小中学校が連携し、創意と活力に満ちた学校経営の推進に努めている。

お知らせ

学校長会副会長 須田順子先生が、神栖市教育長に就任。十月一日付で、鉢田市立旭中学校長萩原光男先生が新副会長となりました。